

※接種前に必ずお読みください。

風しんの第5期予防接種

麻疹・風しん混合(MR)ワクチン予防接種 説明書

風しんの第5期定期接種について、麻疹・風しん混合ワクチンを使用することとしています。

予防接種は、体調の良い日に行うことが原則です。 受ける方の健康状態が良好でない場合には、主治医に相談の上、接種するか否かを決めてください。

【予防接種が受けられない場合】

- ① 明らかな発熱（通常 37.5℃以上をいいます。）がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤ その他、接種医が不適当な状態と判断した場合

1. 風しんについて

風しんは風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。ウイルスに感染してもすぐには症状が出ず、約2～3週間の潜伏期間がみられます。その後、発しん、発熱、首のうしろのリンパ節が腫れるなどが主な症状で現れます。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などがみられることがあります。大人になってからかかるとこどもの時より重症化する傾向がみられます。

妊婦が妊娠早期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害等の障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。

平成25年には全国で、成人男性を中心に風しんの流行がみられ、平成30年には、同じく成人男性を中心とした流行が都市圏でみられ、注意が促されています。そのため、風しんに係る公的接種を受ける機会がなかった男性を風しんの第5期予防接種の対象としました。

2. 予防接種の効果と副反応

予防接種を受けた方のうち、95%以上が免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると風しんにかかることを防ぐことができます。

麻疹・風しん混合ワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱や発しんで、これらの症状は、接種後5～14日の間に多くみられます。また、接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発しん、かゆみなどがみられることがありますが、これらの症状は通常1～3日でおさまります。ときに、接種部位の発赤、腫れ、しこり、リンパ節の腫れ等がみられることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病、脳炎及びけいれん等が報告されています。

3. 予防接種を受けた後の注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副作用が起こることがあります。医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこするのはやめましょう。
- ③ 接種当日は、激しい運動や過度な飲酒は避けましょう。
- ④ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合、速やかに医師の診察を受けてください。
- ⑤ このワクチンの接種後、他のワクチンを接種するには、27日間以上の間隔を空ける必要があります。